

## 尾張旭市平子町北地内市有地利活用懇談会 意見のまとめ

### 【懇談会の意見取りまとめの方針】

- ・市民の対象地の認知度が低い中で今後の個別の用途を決めていくことは難しい。
- ・市民参加型による議論を進めていく上では、対象地の認知度を高めることが必要
- ・短期と長期とを切り替えながら大枠を議論していくことが重要
- ・出された意見から無理に1つに絞る必要はない。
- ・この「意見のまとめ」を、今後の議論に活かしてもらうために、もう少し読みやすいものを市で作って欲しい（この「意見のまとめ」は、各構成員が言ったことを書いてあり、懇談会のまとめとしては良いが、同じ言葉が繰り返して出てきたりするのだ）。

### 【市の財政負担について】

- ・今後の人口減少に伴う財政負担を考えると、何かを作るのではなく、今ある資源を生かしていく。基本的にお金を掛けない。
- ・ハコモノは維持管理費まで考えないといけない。
- ・維持管理費用の負担を少なくする（例えば指定管理者制度）。
- ・利用料収入を生み出すことも考える。
- ・建物を作るにもお金が掛かるが、放置しておいてもお金が掛かる。

### 【環境・景観について】

- ・長年にわたって放置されていたから良くなった自然もあるので、そういった所を生かせば他にはない魅力ができるのではないかと。
- ・新たに森を作ることは難しいので、今ある自然を保ちながら利活用をする。
- ・今の対象地の景観を生かした方法を考える。
- ・建物と緑地のバランスが魅力だと思う。
- ・ハコモノを作るのではなく、自然を残した形とする。
- ・自然を残すといった意見が大多数となった場合、本当に必要なものが作れなくなってしまうという危惧がある。
- ・対象地を有効に使うために伐採は必要。人が通るような場所は切っても良い。
- ・里山的管理が適している。
- ・対象地にこういった植物があるのか、専門家に見てもらう。
- ・倒木の危険性があるものもあり、そういった場所は業者に除伐してもらった方が良い。

- ・場所がもつ魅力を考えていく。坂を上った丘の上、高い建物がなく広い空があること、大き過ぎない適度な大きさといった魅力を生かしていく。
- ・「この場所があるので尾張旭市で子育てしたいと思った」という場所になって欲しい。
- ・子育て世代だけではなくて、市民が気楽に訪れて、楽しめて、ほっとするような場所、散策などができる場所になると良い。
- ・場所やモノだけではなく、場所を生かす（遊び方等）ような仕組みもあると良い。
- ・里山として季節感のある樹木、例えば春の城山の桜に対する秋の紅葉とかも良い。

#### 【利活用の方針について】

- ・一時的と長期的とで利活用の考え方を分けて考える。
- ・対象地のことだけを考えるのではなく、周りの地域や市全体のことでも考えていく必要がある。
- ・様々な多世代の人が利用でき、集まって、コミュニティを形成できるような場所とする。
- ・近隣市の市民が相互にそれぞれの公共施設を利用することもあるので、近隣市と同じ施設を作っても意味がない。
- ・健康都市としてのPRにもなるような（ハコモノではない）施設
- ・ハコモノは作らない。
- ・意味のある施設なら作っても良い。
- ・尾張旭市の公共施設のうち、今あるものを使い、利用率が少ないものは段階的に削減していくことを前提にした上で、必要な公共施設を作っていく。
- ・市内の公共施設のマッチングの点から議論していくべきではないか。
- ・市街化調整区域に指定されていることを考慮すべき。
- ・防災公園のようにオープンスペースとして確保すべきではないか。旭労災病院と一体的に考えることもできる。

#### 【企業誘致について】

- ・守山スマートインターチェンジができると、周辺の物流の事情が変わるため、周りの道路環境を整備するなど対象地を利用しやすいようにした上で、利用してくれる企業を待つ。
- ・企業の業績が市の隆盛を左右し、業績が悪くなると市が一気に廃れてしまう、企業に頼るようなまちづくりとなることに不安がある。
- ・今の環境を保ちながら、働きたい人が働ける場所にしていく。
- ・税金を考えて誘致するにしても、IT関連企業だとか、アート&クラフトなど新しい未来があるような業種を考えるべき。

- ・産廃処分場やゴミ処理場とならないようにする。
- ・雇用や税収が増えるのは良いが交通や環境とのバランスも忘れない。

#### 【対象地への認知度・関心について】

- ・市民の関心が低いので、市民全体が関心を持つようにしていく必要がある。  
（対象地への認知度・関心を高めるためのアイデア）
- ・ポスターを掲示するなど、対象地のことを市民に浸透させる努力が必要
- ・草刈りなどのボランティアを募ることで、こういった土地があるということを市民に周知することにも繋がる。
- ・青空市場のようなものを開催してはどうか。
- ・対象地の名称を統一した方が良い（「平子の森」など）。公募するのも良い。
- ・見学会を何度も開くと良い。
- ・季節ごとにイベント等をやると、対象地が活かされていく。
- ・ウォーキング大会のコースに組み込んでどうか。
- ・写真の撮影会、展示会を開いてはどうか。
- ・子ども達を対象とした「宝探し」のようなイベントはどうか。

#### 【今後の意見の汲み上げに関して】

- ・アンケート結果から、若い人の意見を汲み上げるための方法を考える必要がある。
- ・現在の公共施設を利用している人たちにも意見を聞く必要がある。

#### 【現施設の利活用・一時利用について】

- ・既存の建物は旧耐震基準で建てられたものが多く、また、校舎建築であるため、そのままの状態を利用することは難しい。また、新耐震基準で建てられた建物であっても、長年放置されていたため利用するにはかなりの費用が発生するので、早期に解体撤去すべき建物と、一時利用する建物とを区別して議論する必要がある。
- ・福利厚生棟は、新耐震基準以降の建物であり、周りを手入れすれば使える。
- ・実習園、幼児教育研究所はデザインが良く、平屋で耐震補強費用も少なく済むので、文化財として残して欲しい。
- ・市の図書館や文化会館などは建物や駐車場が狭いので、対象地の図書館を利用したらどうか。
- ・平子町仮設広場の貸出が開始したので、緑丘小中学校の体育館を使えるようにすれば価値が上がる。

- ・ テニスコートや体育館を利用可能な状態にする。
- ・ 築年数を考えると、利活用したとしても先が見えている。
- ・ 使えるように改修するには、かなりの費用が掛かる。
- ・ 不要なものは壊し、使えるものから一時的に使う。
- ・ すぐにでも使えそうなところから市民を入れるということから始める。
- ・ ピンポイントでも良いので、里山的な場所を確保して、市民が入れるようにする。
- ・ モニュメントになり得るものは大切に残してもらいたい。

#### 【今後の具体化に向けて】

- ・ 今後、対象地の利活用の議論を活性化させていく必要があるが、全くのゼロベースで市民が議論していくことは、今の状況では非常に難しい。
- ・ そこで、本懇談会での意見や他の市民の皆さんからの提案を基本にして、市が素案や開発イメージといったものを市民に提示することから始めた方が良い。
- ・ 当然反対意見も出てくると思われるので、その反対意見も含めて議論する機会を設けることが必要
- ・ 今後の具体化に向けては長いスパンで検討すべき。

#### 【施設イメージ】

- ・ どちらも学校の跡地なので教育関連、あるいは子ども関連の施設（スポーツや文化施設）
- ・ 子どもたちが（傾斜のある意図的に作られた）自然の中で、遊びながら学ぶことができるような施設
- ・ カフェやレストランなどの気軽に訪れ、ほっとするような休養施設
- ・ 何か新しい文化を発信するような施設（芸術工房など）
- ・ 里山の暮らしから学ぶことで新しい文化を発信する。
- ・ 良い環境で過ごせる福祉施設
- ・ 学校や老人ホームのように利用する世代を限定しない施設
- ・ 研修などができる宿泊可能な施設
- ・ 大人がウォーキングやランニングなどができる広場みたいなもの
- ・ 働く人を増やせる場所とし、その上で、賑わいがあり、スポーツができ、文化活動も育め、研修所が付随した場所
- ・ 対象地の南北通路を境とし、一方にスポーツ施設、一方に福祉施設を作る。
- ・ 卓球場も考える。